

心血管造影より、左上肺静脈が無名静脈へ還流する部分肺静脈還流異常症の合併が確認された。コントラストエコーで、右肺静脈は副心房に還流することも確認された。3月16日、左開胸で左上肺静脈-左房吻合を行い、8月31日、正中切開で三心房修復術を行った。術中、Unroofed coronary sinus の存在が確認され、副心房へ還流していたため、ASD と共にパッチ閉鎖し、冠静脈血は左房へ誘導した。副心房の存在、肺静脈の還流部位の確認には、コントラストエコーが有用であったが、本症には肺静脈等の奇形を伴う事も多く、術前、術中の慎重な検索が必要である。

24) TGA に対する Arterial Switch Operation 術後の問題点

金沢 宏・山崎 芳彦 (新潟市民病院)
 建部 祥・清水 孝王 (心臓血管外科)
 青木英一郎・桜井 淑史 (呼吸器外科)

1993年4月から1994年11月までに TGA (I) 3例、TGA (II) 2例に対し Arterial Switch Operation を施行した。手術時日令10日~46日、体重 2.5~3.8kg。TGA (II) の1例が第1病日 hypoxia で死亡した。耐術例では TGA (I) の1例が両側肺動脈の狭窄を、1例が主肺動脈の吻合部での高度狭窄を示し、Balloon 拡大術を必要とした。主肺動脈吻合部での拡大効果は得られず、経過観察している。TGA (II) の1例は multiple VSD で muscular VSD が遺残 (Q_F/Q_S=1.3)、LA の拡大と前方からの A₀ の圧迫により左主気管支狭窄を示したが、3カ月後 A₀ 取り付け術を施行しその後の経過は良好であった。

術後の肺動脈狭窄、気管支狭窄などひきつづき慎重な経過観察が必要と思われた。

25) 食道抜去術に際し気管膜様部を損傷した食道表在癌の1例

鹿嶋 雄治・佐藤 謙一郎
 瀧井 康公・林 達彦 (秋田組合総合病院)
 湯口 卓 (外科)
 土田 昌一 (秋田赤十字病院)
 宗岡 克樹 (新潟大学第一外科)
 (心臓血管呼吸器外科)

食道表在癌に対する食道抜去術にさいし、気管膜様部を損傷し、遊離心膜にて修復を行い、良好な術後経過をたどった症例を経験したので報告する。

症例は69歳の男性で、胃癌術後のフォローアップで内視鏡検査を行ったところ胸部中部食道に 0-IIc 型の表在癌をみとめ平成6年6月16日食道抜去術を施行した。抜去直後より air leak を認めたため術中気管支ファイバーを行い左主気管支の膜様部損傷を確認した。右開胸下に 3cm 大の損傷部を遊離心膜をもちいて閉鎖した。術後2週目まで人工呼吸器による呼吸管理を行い、大きな合併症なく退院した。

この症例を文献的考察をくわえて報告する。

26) 進行食道癌に対する術前化学療法

柴尾 和徳・中村 茂樹
 宮下 薫・大黒 善弥 (燕労災病院外科)
 藍沢喜久雄 (新潟大学第一外科)

【目的】我々は進行食道癌に対する化学療法で良好な治療成績を収めたので報告する。【対象と方法】1993年12月から1994年7月までに当科で経験した進行食道癌5例。占拠部位は、Im 2例、Ei 3例だった。術前化学療法として CDDP 60~70mg/m² iv, 5FU 500~750 mg/m² × 5日 div, ロイコポリン 20 mg/m² × 5日 iv を2~5クール施行した。このうち3例に切除術を行い、非手術は2例 (A₃ 1例、低心機能1例) だった。【結果】奏効度 CR; 0例, PR; 3例, NC (MR); 1例, PD; 1例で奏効率は60% (3/5) だった。副作用として軽度の白血球低下、食欲不振、吐気、口腔内アフタ、脱毛が認められた。【結語】CDDP, 5FU, LV による化学療法は有効だった。

27) 早期胃癌に対する大網温存幽門側胃切除術の検討

鈴木 晋・杉本不二雄
 吉田 正弘・斎藤 六温 (刈羽郡総合病院)
 関矢 忠愛 (外科)

当院では1987年よりA、M領域の早期胃癌に対し、術後のQOLの向上を目的とした大網温存幽門側胃切除術を行っておりその数は120例をこえた。

そこで今回大網温存術と従来の大網切除術で、予後、手術時間、出血量、入院期間、術後の合併症、愁訴につき比較検討した。

両術式で、5生率に差はみられなかった。大網温存術は非温存術に比し出血量が少なく、手術時間が短かった。大網温存術では腹痛をはじめとする術後(退院後)の愁